

【電波有効利用促進型研究開発】

| 課題名 | 研究代表者 | 研究分担者 | 研究開発の概要 | 研究期間 |
|---------------------------------------|------------------|-------|--|--------------|
| 周波数共用型小電力無線通信のための高度スペクトルマネジメント技術の研究開発 | 佐々木 重信 (新潟大学) | なし | 1次利用の無線局の存在を見逃す可能性がある環境でも1次利用局への干渉を極力与えずに周波数の2次利用を実現し、かつ運用中に1次利用局の存在を検出した場合、速やかに利用可能な他の周波数への切り替えを実行する周波数チャンネルマネジメント技術の研究開発を行う。また速やかな周波数切り替えを行ったときでも、運用周波数帯域に隣接する帯域への干渉を避けるための適応型スペクトル制御技術と受信側における信号再生技術の研究開発を行う。 | フェーズ I 1年 |

【地域ICT振興型研究開発】

| 課題名 | 研究代表者 | 研究分担者 | 研究開発の概要 | 研究期間 |
|---|--------------------|-----------------------|--|------|
| タブレット端末を活用した除雪車運行支援 ICT システムの研究開発 | 山本 寛 (長岡技術科学大学) | 山崎 克之(長岡技術科学大学) | 本研究開発では、ICT 技術に精通していない除雪作業でも使用できるように、直感的なインタフェースを備えたタブレット端末を中心とした除雪車運行支援 ICT システムの実現を目的とする。特に VR/AR 表示技術を利用して、除雪車への路側や道路設備の接近を除雪作業者に視覚的に通知する道路状況通知システムと、携帯網や新周波数帯(920MHz 帯)を利用して、除雪車間で作業状況をリアルタイムに共有する除雪車連携システムを研究開発し、除雪車に設置しての実証実験を経て実用化可能なシステムを実現する。 | 2 年 |
| 在宅障がい者(児)宅の安心療養環境を創出する病一宅連携型高度 ICT 総合ケアシステム | 中村 昭則 (信州大学) | 宮崎 大吾、滝沢 正臣 (信州大学) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 遠隔生体情報モニタリング;VPN を介し、医師が病院で在宅患者を常時モニター出来るシステム。 2. 情報共有;病院医師・かかりつけ医・訪問看護師…療法士…薬剤師・患者/家族が共有するクラウド型モバイル電子情報システムと MFER,HL7 規格による病院電子カルテとのリンク。 3. モバイル型高度見守り・映像コミュニケーションシステム。 以上の機能を1台のモバイル端末で情報共有できる高度 ICT 総合在宅ケアシステムの開発。 | 2 年 |